

博物館 アラカルト 22

●備後国一宮社の図(黄葉夕陽文庫)

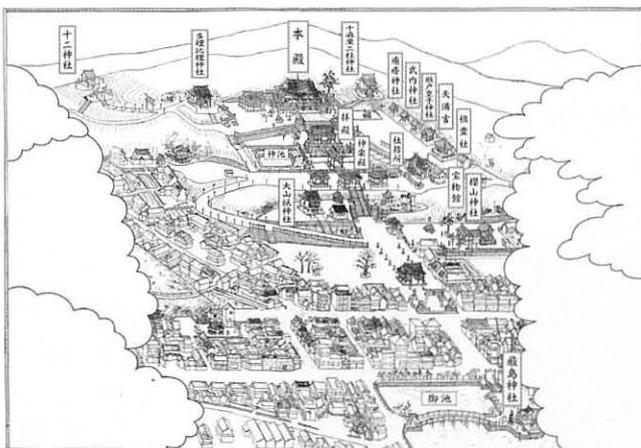
当館は、江戸時代後期に漢詩人としてその名が全国に知られた備後国神辺宿（福山市神辺町）の儒学者・菅茶山（1748～1827）とその一族が所蔵した資料を、黄葉夕陽文庫として所蔵しています。今回はその中から、備後・吉備津神社を描いた摺り物を紹介します。

吉備津神社（福山市新市町）は、古代に吉備国が備前・備中・備後に分かれた時、備中国の吉備津神社（岡山県岡山市）より分祀したといわれています。中世には備後国の一宮とされ、鎌倉時代の「一遍上人絵伝」には境内の様子が描かれています。地元では現在でも「いっきゅうさん」の名で親しまれています。

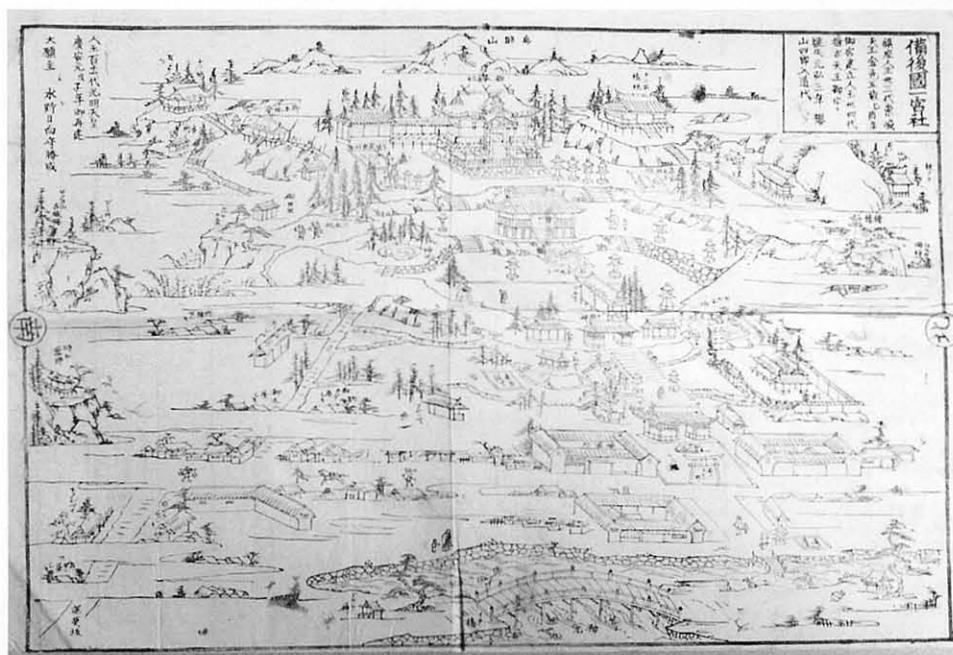
「備後国一宮社の図」は、江戸時代の吉備津神社境内とその周辺の景観を木版で墨摺りした一枚物の版画です。吉備津神社には安永2年（1773）奉納の同社境内図絵馬がありますが、建物配置がほぼ同一なので、この絵馬を参考にしたと思われます。

江戸時代後期には各地の名所旧跡を紹介した版画が多く摺られ、現代の観光パンフレットのような役割を果たしていました。広島県内では厳島神社のものが多く残っていますが、吉備津神社のものは黄葉夕陽文庫のみでしか確認されていません。

（主任学芸員 西村直城）



現在の吉備津神社（提供：吉備津神社）



備後国一宮社の図（黄葉夕陽文庫）